

家政大校内の野草の現状 2005

Flora in the Campus of Tokyo Kasei University 2005

越尾 淑子*・湯山隼之助*・大澤 力*・亀井 裕幸*・**
中村 信也*・浅川 真理*・宮澤 弘二*

Toshiko KOSHIO, Junnosuke YUYAMA, Tsutomu OSAWA,
Hiroyuki KAMEI, Nobuya NAKAMURA,
Mari ASAKAWA and Kouji MIYAZAWA

はじめに

家政大学板橋校舎における野草の調査は1955年頃高橋敬三等¹⁾によって行なわれ約30年の後、越尾等によって、1984年から1986年まで3年間にわたり、板橋構内の野草の調査が行なわれた²⁾。越尾等は更に1993に入りもう一度調査を行なった³⁾が、学園の建築ラッシュが続き、調査を継続して行なうことは不可能であった。2005年現在も4号棟、臨床相談センターは出来上がったが、2号館、3号館の耐震工事が行なわれ現在1号館が建て直されている。工事により樹木を伐採され植え替えが行なわれ資材置き場の設置、車の進入などいろいろ野草に悪影響が出る。

逆に植物の環境保護の面では、2001年より附属中高において、中高の敷地の一角に、湯山等がビオトープを作りはじめ、同時に現在迄に附属ビオトープにおける観察が湯山等によって行なわれた^{4, 5)}。附属幼稚園でも大澤等がビオトープの整備を行ないつつあるが、幼稚園の隣接地では1号館の工事が行なわれているため幼稚園におけるビオトープの整備は遅れているのが実情である。しかし、学園の建物の工事については、現在、構内の比較的端にある1号館の工事を行なっているだけなので、観察に限って言えば、観察し易い状態になっている。本報で

は板橋構内における現在の野草の植生を報告する。

植生の変化

学内で一番緑が保全されていると思われる樹群のある地域(図1)の、常緑樹の林床には1997年頃から東京都の保護上重要な野生生物種—1998年版—⁶⁾とされるマヤラン(*Cymbidium nipponicum* (Franch. et Savat.) Makino) (写真1)が確認されたが、隣接する120周年棟工事の影響と、落葉のかなり丁寧な掃除及び、自転車置き場と化したことからその数は激減した。しかし、著者らのプロジェクトによる提案により[1] 自転車置き場の移動。[2] 緑地周辺に置き石を並べて外周にヤブランを植え、精神的なバリアーを作ったことによりナースリーや幼稚園の幼児以外が緑地に入り難くした。(写真2, 3)。[3] 学園に要望を出し、落葉掃除を最小限にお願いしたこと。[4] 箒でなく電気での吸い取りタイプの集塵ブローアを使用したこと。[5] 落葉を完全に掃き出すのではなく、木の根元などに残しておく方法を学園にご了解いただいたこと(写真4)。[6] 林床部にシャガやシュンラン、ヤブコウジ、マンリョウなどを植えたこと(写真5, 6, 7, 8)により、林床に苔が生えはじめ、土も踏み固められないことから、感触が柔らかい感じに戻って来た。土が柔らかくなると雨水も浸透し易く、植物への環境は格段に良くなって

* 東京家政大学生生活科学研究所

** 北区まちづくり推進課

来た。マヤランは本構内においても絶滅寸前であるが、なんとしてもこれを保存育成の努力をした。また、同じ林床には2003年からキンラン (*Cephalanthera falcata*) (写真9) が咲き始めた。2003年は二株であったが徐々に増え2005年には五株になった。しかしながら現場は園児の格好の遊び場であるため、つぼみが大きくなると、特にキンランは非常に鮮やかで目立つ色をしており、それが災いして、花の部分だけ摘み取られてしまい、結実はおろか、開花にもいたらないのが残念である。

一方、落葉樹の林床は山路か雑木林のような様子を示していたが、2002年頃から藪笹が生えはじめ、どんどん縁辺に進出して来るようになった。(写真10) これは、適宜刈り取る以外に方法はないようである。附属のビオトープも藪笹がほんの一年ほどであったという間にはびこって、これは今年刈り取った。

また、4号館前庭と、生活科学研究所横には、竹の進出も2004年から顕著になった(写真11)。2003年には竹に大量の毛虫が発生し、根元から伐採したら、翌年から広範囲に竹が繁殖してしまった。

同時に2003年からシュロ (*Trachycarpus fortunei*) が増えはじめ、2005年には生活科学研究所前の樹群の下にも生えたものがあつという間に大きくなりつつある。小さなものは手でも抜けるが、大きくなってしまうと藪笹よりも厄介である。竹同様初期にごく小さなうちに抜き取るのが一番確実な方法のようである。

図書館前は建物を壊した後、更地を保ってあるが、文化祭でクラブ活動のためのテントを張るので、土埃が立たないように植物の種子を蒔いたため、最初はクローバーが一面に生えていた。その後種々の野草が茂りはじめて、現在ではいわゆる原っぱ状態になっている。時期により様変わりしながらであるがオオアラセイトウ (*Orychophragmus violaceus*) も2005年には多く見られた。

学園内全体としてみると、前回の調査に比べ、

先に述べた希少植物のマヤラン、キンランの他には、ムシトリナデシコ (*Silene armeria*) やコパンソウ (*Brizamaxima*) が新たに確認された。また、附属中高のビオトープには今までに板橋構内で確認されなかったウラジロチコグサ (*Gnaphalium spicatum* Lam.) やタカサブロウ (*Eclipta thermalis*)、サナエタデ (*Polygonum scabrum*)、ミズヒキ (*Polygonum filiforme*)、ギンミズヒキ、ヒヨドリジョウゴ (*Solanum lyratum*)、ムシトリナデシコ、アカツメクサ (*Trifolium pratense*)、タイワンホトトギス (*Tricyrtis formosana* Baker) が自生してきた。^{4,5)} また、学内の別の場所にあったが、たびたびの草刈や護岸のために植えたと思われるアイビーの猛繁殖などによる環境の変化、植生の変化により、なくなってしまったワレモコウ (*anguisorba officinalis*) や、ホタルブクロも附属中高のビオトープを作って2年目に確認され、関係者を喜ばせている。今年度は低木のブッドレア (*Buddlejadavidii*) (別名フサフジウツギ) (英名では *butterfly bush* というように蝶が集まる花) がいつの間にか根付き、紫の花を房状に咲かせている(写真12)。大学院棟の前の土手は、残念なことに10株ほどに増えていたツリガネニンジン (*Adenophora riphylla*) は土手の野草を全て刈り取り、砂利等を撒いてしまったためその後は土が露出してしまい、ほとんど草が生えていない。ここ10年ほどは確認がされていない。しかしきれいに草刈りをし過ぎて土が露出しているが、以前のようにすすきなどが生えていた方が景観も良く、雨などにより土砂が流出するのを防止する効果もある。

まとめ

マヤランについても例年は6月には地上に出ていたのだが、今年は6月末になってもまだ確認されていない。7月9日にわずかに数本出て来たのみであるが、これも2本は折られてしまった。かろうじて後2本花を咲かせた。今年の異常気象の(梅雨の最初は気温が低く雨がほとんど降らない。梅雨の終わりには一気に雨が降り、

気温が上がった) 影響か、8 月終わってから9 月にかけて少し出て来た。(写真4) 10 月でもまだ少し咲き続けている。今後継続的に調査を続けて行く必要がある。幼児の情操教育に欠かせない自然との関わりに最適な場所ではあるが、貴重な植物なので保護のための対策を取らないとまらないだろう。ツリガネニンジン(写真13-a)は現時点では板橋構内の中では確認できなくなっているが、附属中高ビオトープ、附属幼稚園ビオトープ、更には、新たに出来るナースリー園庭に生えてくることを期待したい。この後者2つも学園の敷地の端にあるため野草が保存され易いことを願う。ワレモコウ、ホタルブクロが従来の場所(写真13-a)では生育していないのは残念であるが、新たな生育の場を得たことは実に喜ばしいことである。キンランについては毎年花がむしられてしまうのが残念だが、しかし大人が根元から盗掘するわけではないので、子どもの情操教育を考えると諦めざるをえないが、今後はこれに関しても何か対策を講じる必要があるだろう。マヤランはどこに出て来るか分からない。夏に突然小さな花が出てくるので、一帯を立ち入り禁止にする以外ないのかもしれない。ムシトリナデシコやコパンソウ、ウラジロチチコグサ、タカサブロウ、サナエタデ、ミズヒキ(赤、白) ヒヨドリジョウゴ、アカツメクサ、タイワンホトトギス等新たな野草が確認されたことは今後もそんなに広い場所でもなくとも、野草が茂ることが出来る場所を確保することにより、都内でも希少な、いやそれどころか、環境庁のレッドデータブック(RDB)に載るような野草が何気なく生えてくることを期待させてくれるものでもある。女子の多い学園ということで、学園イメージからすると、あまり草ぼうぼうの状態はそぐわないかも知れない。また、藪が多いとヤブ蚊や毛虫などをはじめいろいろな虫が発生し、それを嫌う人たちもいる。しかし、虫を食べるトンボや、鳥も集まって来るし、樹に絡み付くヤブガラシの花や、ブッドレアには蝶々が寄って来る。実のなる木もあるから鳥も

来るし、害虫を食べるツバメも毎年来ている。緑が多いことで夏の照り返しも抑えられ、樹が多く枝を張れば、樹陰による建物の温度調節、学園構内の温度上昇抑制、騒音緩和、大気の浄化作用もある。自然豊かな学園の特徴にもなる。本学附属のみどりが丘幼稚園の園長先生も、森の幼稚園と名付けている⁷⁾。附属中高も学校紹介にビオトープを大きく謳っている。ナースリーにとっても幼児の心が伸び伸び育つためには板橋校舎内の緑、野草は欠かせないものになっている。野草、樹木を含めた「緑を全学的な財産」として守り育てて行くことを提言する。

参考文献

- 1 高橋敬三、安村明：原本不明，1955
- 2 越尾淑子、原田真知子：身近な野草図鑑，朝日出版サービス，1987
- 3 越尾淑子、原田真知子：東京家政大学の野草について，東京家政大学紀要 37 (2) 1994
- 4 湯山隼之助他：～家政の子たちへ 第1報 家政ビオトープ誕生から現在迄～，東京家政大学附属女子中学校・高等学校研究紀要第23号，2003
- 5 湯山隼之助他：～家政の子たちへ 第2報～，東京家政大学附属女子中学校・高等学校研究紀要第23号，2003
- 6 東京都の保護上重要な野生生物種－1998年版－ <http://www2.kankyo.metro.tokyo.jp/sizen/rdb/top.htm>
- 7 新澤誠治：森の幼稚園にしたい，森だより，東京家政大学附属幼稚園，2004 5月号



写真1-a 構内に自然に生育しているマヤラン
ラン菌がないと育たないので、移植はほぼ不可能



写真1-b 構内に自然に生育しているマヤラン
木の根元に同心円状に出ている。



写真2 並べた置石



写真3-a 外周に植えたヤブラン



写真3-b 外周に植えたヤブラン



写真4 木の根元に残した落葉



写真5 林床に植えたシャガ



写真6 林床に植えたシュンラン



写真7 林床に植えたヤブコウジ



写真8 林床に植えたマンリョウ



写真9-a 林床に自生するキンラン



写真9-b 林床に自生するキンラン
ラン菌がないと育たないので、移植はほぼ不可能



写真10 林床に繁殖する藪笹



写真11 植え込みの中に繁殖する竹



写真12 附属高校のビオトープに自生したブッドレヤ。下にピンクの花を咲かせているのはムシトリナデシコ



写真13-a 野草を刈り取られ、土の露出した土手



写真13-b 野草を刈り取られ、土の露出した土手



写真14-a 附属高校のビオトープに自生したホタルブクロ



写真14-b 附属高校のビオトープに自生したワレモコウ



(図1) 2003年の学内地図

●は著者らの調査による地上1.5m周径1.2m以上の木

表-1 東京家政大学板橋構内の野草一覧 (1994. 越尾・原田)

和名	科名	学名
アカネ	アカネ科	<i>Rubia cordifolia</i> L. var. <i>Mungista</i> Miq.
シロザ	アカザ科	<i>Chenopodium album</i> L.
ヘクソカズラ	アカネ科	<i>Paederia scandens</i> Merril
ヤエムグラ	アカネ科	<i>Galium Aparine</i> L.
アカバナユウゲショウ	アカバナ科	<i>Oenothera rosea</i> Ait.
オオマツヨイグサ	アカバナ科	<i>Oenothera Lamarckiana</i> Ser.
メマツヨイグサ	アカバナ科	<i>Oenothera biennis</i> L.
イヌガラシ	アブラナ科	<i>Porippa indica</i> (L.) Hiern
オアラセイトウ	アブラナ科	<i>Orychophragmus violaceus</i> (L.) O. E. Schulz
タネツケバナ	アブラナ科	<i>Cardamine flexuosa</i> Withering
ナズナ	アブラナ科	<i>Capsella Bursa-pastoris</i> (L.) Medius
ニワゼキショウ	アヤメ科	<i>Sisyrinchium argustifolium</i> Mill.
クサイ	イグサ科	<i>Juncus tenuis</i> Willd.
スズメノヤリ	イグサ科	<i>Luzuia campestris</i> DC. var. <i>capitata</i> Miq.
ギンリョウソウ	イチヤクソコ科	<i>Monosropastrum globosum</i> H. Andres
アオカモジグサ	イネ科	<i>Agropyron ciliare</i> Franchet
アキノエノコログサ	イネ科	<i>Setaria Faberii</i> Herrm.
アブラススキ	イネ科	<i>Eccoilopus cotulifer</i> A. Camus
イヌエビ	イネ科	<i>Echinochloa crus-galli</i> Beauv.
エノコログサ	イネ科	<i>Setaria viridis</i> Beauv.
オヒシバ	イネ科	<i>Eieusine indica</i> Gaertner
キンエノコロ	イネ科	<i>Seraria lutescens</i> F.T. Hubbard
ケチヂミザサ	イネ科	<i>Oplismenus undulatifolius</i> Roem. et Schult.
コブナグサ	イネ科	<i>Arshraxon hispidus</i> Makino
コメヒシバ	イネ科	<i>Digitaria chinensis</i> Homem.
ジュズダマ	イネ科	<i>Coix Lacryma-Jobi</i> L.
ススキ	イネ科	<i>Miscanthus sinensis</i> Anderss.
スズメノカタビラ	イネ科	<i>Poa annua</i> L.
スズメノテッポウ	イネ科	<i>Alopecurus aequalis</i> Sobol. amurensis Ohwi
スズメノヒエ	イネ科	<i>Paspalum Thunbergii</i> Kunth
チガヤ	イネ科	<i>Imperata cylindrica</i> Beauv.
チカラシバ	イネ科	<i>Pennisetum japonicum</i> Trinius.
トダシバ	イネ科	<i>Arundimella hirta</i> Tanaka
ナガハグサ	イネ科	<i>Poa prathensis</i> L.
ナルコビエ	イネ科	<i>Eriochloa villosa</i> Kunth
ヌカキビ	イネ科	<i>Panicum bisulcatum</i> Thunb.
ノガリヤス	イネ科	<i>Clamagrostis arundinacea</i> Roth
ムラサキエノコロ	イネ科	<i>Setaria viridis</i> Beauv. forma <i>purpurascens</i> Maxim.
メガルカヤ	イネ科	<i>Themada japonica</i> Tanaka

和名	科名	学名
メヒシバ	イネ科	<i>Digitaria adscendens</i> <i>Henr.</i>
メヤブマオ	イラクサ科	<i>Boehmeria platanifolia</i> <i>French. et Sav.</i>
ヤブマオ	イラクサ科	<i>Boehmeria longispica</i> <i>Steud.</i>
ウド	ウコギ科	<i>Aralia cordata</i> <i>Thunb.</i>
アマチャズル	ウリ科	<i>Gynostemma Pentaphyllum</i> <i>Makino</i>
カラスウリ	ウリ科	<i>Trichosanthes cucumeroides</i> <i>Maxim.</i>
キカラスウリ	ウリ科	<i>Trichosanthes Kirilowii</i> <i>Maxim. var. japonica</i> <i>Kitam.</i>
スズメウリ	ウリ科	<i>Melothria japonica</i> (Thub.) <i>Maxim.</i>
オオバコ	オオバコ科	<i>Plantago asiatica</i> <i>L.</i>
へらオオバコ	オオバコ科	<i>Plantago lanceolata</i> <i>L.</i>
オトコエシ	オミナエシ科	<i>Patrinia villosa</i> (Thunb.) <i>Juss.</i>
アカカタバミ	カタバミ科	<i>Oxalis corniculata</i> <i>L. ; O. repens</i> <i>Thunb.</i>
カタバミ	カタバミ科	<i>Oxalis corniculata</i> <i>L.</i>
ムラサキカタバミ	カタバミ科	<i>Oxalis Mrtiana</i> <i>Zucc.</i>
アゼスゲ	カヤツリグサ科	<i>Carex Thunbergii</i> <i>Steudel</i>
カヤツリグサ	カヤツリグサ科	<i>Cyperus microiria</i> <i>Steud.</i>
ナキリスゲ	カヤツリグサ科	<i>Carex sendaica</i> <i>Frenchet var. Nakiri</i> <i>T. Koyama</i>
ツリガネニンジン	キキョウ科	<i>Adenophora sriphylla</i> <i>A DC. var. japonica</i> <i>Hara</i>
ホタルブクロ	キキョウ科	<i>Campanula punctata</i> <i>Lam.</i>
ヤマホタルブクロ	キキョウ科	<i>Campanula punctata</i> <i>Lam. var. hondoensis</i> (Kitam.) Ohwi
アカタンポポ	キク科	<i>Taraxacum laevigatum</i> <i>DC.</i>
アキノキリンソウ	キク科	<i>Solidago virga-aurea</i> <i>L.</i>
アメリカセンダングサ	キク科	<i>Bidens frondosa</i> <i>L.</i>
イワニガナ	キク科	<i>Ixeris stolonifera</i> <i>A. Gray</i>
オオアレチノギク	キク科	<i>Erigeron samastrensis</i> <i>Retz.</i>
オオアワダチソウ	キク科	<i>Solidago serotina</i> <i>Ait.</i>
オニタビラコ	キク科	<i>Youngia japonica</i> <i>DC.</i>
オニノゲシ	キク科	<i>Sonchus asper</i> <i>Vill.</i>
カントウタンポポ	キク科	<i>Taraxacum platycarpum</i> <i>Dahlst.</i>
キツネアザミ	キク科	<i>Hemistepta carthamoides</i> <i>O.Kuntze</i>
コウゾリナ	キク科	<i>Picris hieracioides</i> <i>L. var. japonica</i> <i>Regel</i>
コオニタビラコ	キク科	<i>Lapsana apogonoides</i> <i>Maxim.</i>
コゴメギク	キク科	<i>Galinsoga parviflora</i> <i>Cav.</i>
コセンダングサ	キク科	<i>Bidens piosa</i> <i>L.</i>
シロバナタンポポ	キク科	<i>Traxacum albdum</i> <i>Dahlst.</i>
シロヨメナ	キク科	<i>Aster agerato</i> <i>Turcz. var. adustus</i> (Maxim.)
セイタカアワダチソウ	キク科	<i>Solidago altissima</i> <i>L.</i>
セイヨウタンポポ	キク科	<i>Taraxacum officinale</i> <i>Weber</i>
タイアザミ	キク科	<i>Cirsium nipponicum</i> (Maxim.) Makino var. <i>incomptum</i> (Fr.et Sav.) Kitam.
ダンドボロギク	キク科	<i>Erechtites hieracifolia</i> (L.) <i>Rafin.</i>

和名	科名	学名
チチコグサ	キク科	<i>Gnaphalium japonicum</i> Thunb.
トキンソウ	キク科	<i>Centipeda minima</i> O. Kuntze
ニガナ	キク科	<i>Lactuca dentata</i> Makino.
ノアザミ	キク科	<i>Cirsium japonicum</i> DC
ノコンギク	キク科	<i>Aster ageratoides</i> Turcz.var. <i>ovatus</i> Nakai.
ノハラアザミ	キク科	<i>Cirsium Tanakae</i> (Franch.et Savat.) Matsum.
ノボロギク	キク科	<i>Senecio vulgaris</i> L.
ハキダメギク	キク科	<i>Galinsoga parviflora</i> Cav.
ハハコグサ	キク科	<i>Gnaphalium affine</i> D.Don
ハルジオン	キク科	<i>Erigeron philadelphicus</i> L.
ハルノノゲシ	キク科	<i>Sonchus oleraceus</i> L.
ヒメジョーン	キク科	<i>Erigeron annuus</i> L.
ヒメムカシヨモギ	キク科	<i>Erigeron canadensis</i> L.
ヒョドリバナ	キク科	<i>Eupatorium chinense</i> L.
フキ	キク科	<i>Petasites japonicus</i> Miq.
ブタクサ	キク科	<i>Ambrosia artemisiaefolia</i> var. <i>elation</i>
ブタナ	キク科	<i>Hypochaeris radicata</i> L.
ヤクシソウ	キク科	<i>Youngia denticulata</i> Maxim.
ユウガギク	キク科	<i>Kalimeris pinnatifida</i>
ヨツバヒヨドリ	キク科	<i>Eupatorium chinese</i> var <i>sachalinense</i> Makino
ヨメナ	キク科	<i>Kalimeris Yomena</i> Kitam.
ヨモギ	キク科	<i>Artemisia Indica</i> var <i>maximowiczii</i>
キツネノマゴ	キツネノマゴ科	<i>Justicia procumbens</i> L.
センニンソウ	キンポウゲ科	<i>Clematis terniflora</i>
カナムグラ	クワ科	<i>humulus japonicus</i> Sieb. et Zucc.
クワクサ	クワ科	<i>Fatoua villosa</i> Nakai
タケニグサ	ケシ科	<i>Macleaya cordata</i> (Willd.) R. Br.
ウリクサ	ゴマノハグサ科	<i>Lindemia crustacea</i> (L.) F. v. Mueller
オオイヌノフグリ	ゴマノハグサ科	<i>Veronica persica</i> Poir.
タチイヌノフグリ	ゴマノハグサ科	<i>Veronica arvensis</i> L.
トキワハゼ	ゴマノハグサ科	<i>Mazus pumilus</i>
ビロードモウズイカ	ゴマノハグサ科	<i>Verbascum thapsus</i> L.
ムラサキサギゴケ	ゴマノハグサ科	<i>Mazus Miquelii</i> Makino
アカバナリリハコベ	サクラソウ科	<i>Anagallis arvensis</i> L.
オカトラノオ	サクラソウ科	<i>Lysimachia clethroides</i> Duby
コナスビ	サクラソウ科	<i>Lysimachia japonica</i> Thunb.
ノジトラノオ	サクラソウ科	<i>Lysimachia barystachys</i> Bunge
カラスビシャク	サトイモ科	<i>Pinellia ternata</i> Breit
イヌコウジュ	シソ科	<i>Mosla punctulata</i> (J. F. Gmel.) Nakai
カキドオシ	シソ科	<i>Glechoma hederacea</i> L.

和名	科名	学名
キランソウ	シソ科	<i>Ajuga decumbens</i> Thunb.
ジュウニヒトエ	シソ科	<i>Ajuga nipponensis</i> Makino
ヒメオドリコソウ	シソ科	<i>Lamium purpureum</i>
ホトケノザ	シソ科	<i>Lamium amplexicaule</i>
ミョウガ	ミョウガ科	<i>Zingiber mioga</i>
スベリヒユ	スベリヒユ科	<i>Portulaca oleracea</i>
アメリカスミレサイシン	スミレ科	<i>Viola sororia</i> Willd.
コスミレ	スミレ科	<i>Viola japonica</i>
スミレ	スミレ科	<i>Viola mandshurica</i>
タチツボスミレ	スミレ科	<i>Viola grypceras</i>
オオチドメ	セリ科	<i>Hydrocotyle ramiflora</i>
チドメグサ	セリ科	<i>Hydrocotyle sibthorpioides</i>
イシミカワ	タデ科	<i>Polygonum perfoliatum</i>
イタドリ	タデ科	<i>Reynoldsia japonica</i>
イヌタデ	タデ科	<i>Polygonum longisetum</i>
ギンギシ	タデ科	<i>Rumex Japonicus</i>
スイバ	タデ科	<i>Rumex acetosa</i>
ミズヒキ	タデ科	<i>Polygonum filiforme</i>
アオツヅラフジ	ツヅラフジ科	<i>Cocculustrilobus</i>
ツユクサ	ツユクサ科	<i>Commelina communis</i>
エノキグサ	トウダイグサ科	<i>Acalypha australis</i>
オオニシキソウ	トウダイグサ科	<i>Euphorbia maculata</i>
コニシキソウ	トウダイグサ科	<i>Euphorbia supina</i>
タカトウダイ	トウダイグサ科	<i>Euphorbia pekinensis</i> Rupr. var. <i>japonensis</i>
ニシキソウ	トウダイグサ科	<i>Euphorbia humifusa</i> var. <i>pseudochamaesyce</i>
ヒメミカンソウ	トウダイグサ科	<i>Phyllanthus Matsumurae</i>
スギナ	トクサ科	<i>Equisetum arvense</i>
ドクダミ	ドクダミ科	<i>Houttuynia cordata</i>
テリミノイヌホオズキ	ナス科	<i>Solanum photeinocarpum</i> Nakamurae et Odashimoc
ヒヨドリジョウゴ	ナス科	<i>Solanum lyratum</i> Thunb.
ヤマホロシ	ナス科	<i>Solanum japonese</i>
オランダミミナグサ	ナデシコ科	<i>Cerastium glomeratum</i>
ツメクサ	ナデシコ科	<i>Sagina japonica</i>
ノミノフスマ	ナデシコ科	<i>Stellaria alsine</i> var. <i>undulata</i> .
ハコベ	ナデシコ科	<i>Stellaria media</i>
ミミナグサ	ナデシコ科	<i>Cerastium caespitosum</i> Gilib.
ムシトリナデシコ	ナデシコ科	<i>Silene Armeria</i>
オヘビイチゴ	バラ科	<i>Potensilla kleiniana</i>
クサイチゴ	バラ科	<i>Rubus hirsutus</i>
ナワシロイチゴ	バラ科	<i>Rubus parvifolius</i>

和名	科名	学名
ヘビイチゴ	バラ科	<i>Duchesnea chrysantha</i>
ワレモコウ	バラ科	<i>Sanguisorba officinalis</i>
ヒナタイノコズチ	ヒユ科	<i>Achyranthes Fauriei</i>
ヒルガオ	ヒルガオ科	<i>Calystegia japonica</i>
ヒロハヒルガオ	ヒルガオ科	<i>Calystegia sepium</i>
マルバルコウソウ	ヒルガオ科	<i>Quamoclit coccinea</i>
ゲンノショウコ	フウロソ科	<i>Geranium Thunbergii</i>
エビヅル	ブドウ科	<i>Vitis Thunbergii</i>
キクバエビヅル	ブドウ科	<i>Vitis ficifolia</i>
ツタ	ブドウ科	<i>Parthenocissus tricuspidate</i>
ノブドウ	ブドウ科	<i>Ampelopsis brevipedunculata</i> (Maxim.)
ヤブガラシ	ブドウ科	<i>Cayratia japonica</i> (Thunb.) Gagn.
クズ	マメ科	<i>Pueraria lobata</i>
ゲンゲ	マメ科	<i>Astragalus sinicus</i>
コメツブメクサ	マメ科	<i>Trifolium dubium</i> Sibth.
シロツメクサ	マメ科	<i>Trifolium repens</i>
ヌスビトハギ	マメ科	<i>Desmodium Oxyphyllum</i>
ネコハギ	マメ科	<i>Lespedeza pilosa</i> (thunb.)
ノアズキ	マメ科	<i>Dunbaria villosa</i> Makino
ムラサキツメクサ	マメ科	<i>Trifolium pratense</i>
ヤハズエンドウ	マメ科	<i>Vicia</i>
ヤブマメ	マメ科	<i>Amphicarpaea edgeworthii</i> var. <i>japnica</i>
キュウリグサ	ムラサキ科	<i>Trigonotis peduncularis</i>
ハナイバナ	ムラサキ科	<i>Bothriospermum tenellum</i>
ヨウシュヤマゴボウ	ヤマゴボウ科	<i>Phytolacca americana</i>
オニドコロ	ヤマノイモ科	<i>Dioscorea Tokoro</i>
ヤマノイモ	ヤマノイモ科	<i>Dioscorea japonica</i>
オオバギボウシ	ユリ科	<i>Hosta Sieboldiana</i>
コバギボウシ	ユリ科	<i>Hosta albomarginata</i>
ジャノヒゲ	ユリ科	<i>Ophiopogon japonicus</i>
ツルボ	ユリ科	<i>Scilla scilloides</i>
ノビル	ユリ科	<i>Allium Grayi</i>
ホソバナアマナ	ユリ科	<i>Lloydia triflora</i>
ヤブカンゾウ	ユリ科	<i>Hemerocallis fulva</i> var. <i>Kawanso</i>
ヤブラン	ユリ科	<i>Liriope platyphylla</i>
ヤマジノホトトギス	ユリ科	<i>Tricyrtis affinis</i>
ヤマホトトギス	ユリ科	<i>Tricyrtis macropoda</i>
エビネ	ラン科	<i>Calanthe discolor</i>
ネジバナ	ラン科	<i>Spiranthes sinensis</i>
フデリンドウ	リンドウ科	<i>Gentiana zollingeri</i>

表－２ 大学構内にある野草の科名と種類

Family Number of Species			Family Number of Species		
板橋 狭山			板橋 狭山		
アカザ科	1	1	アカネ科	3	3
アカバナ科	2	2	アブラナ科	4	3
アヤメ科	1	1	イグサ科	2	1
イチヤクソウ科	0	1	イネ科	20	10
イラクサ科	2	0	ウコギ科	0	1
ウリ科	1	3	オオバコ科	1	2
オミナエシ科	0	1	カタバミ科	3	3
カヤツリグサ科	2	2	キキョウ科	2	2
キク科	32	39	キツネノマゴ科	1	1
キンボウゲ科	1	0	クワ科	2	2
ケシ科	1	1	ゴアマノハグサ科	4	5
サクラソウ科	3	2	サトイモ科	1	0
シソ科	2	5	ショウガ科	1	1
スベリヒユ科	1	1	スマレ科	2	4
セリ科	2	2	タデ科	4	6
ツツラフジ科	1	1	ツユクサ科	1	1
トウダイグサ科	4	5	トクサ科	1	1
ドクダミ科	1	1	ナス科	2	2
ナデシコ科	4	6	バラ科	2	5
ヒユ科	1	1	ヒルガオ科	4	3
フウロソウ科	0	1	ブドウ科	4	4
マメ科	5	9	ムラサキ科	1	2
ヤマゴボウ科	1	1	ヤマノイモ科	2	2
ユリ科	4	8	ラン科	1	2
リンドウ科	0	1			

1994年調査 越尾・原田